

**製品名: CRIF1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab09397**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000
分子量	

**抗原情報**

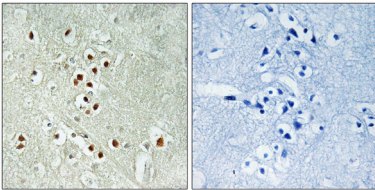
遺伝子名	GADD45GIP1
別名	GADD45GIP1; PLINP1; PRG6; Growth arrest and DNA damage-inducible proteins-interacting protein 1; CKII beta-associating protein; CR6-interacting factor 1; CRIF1; Papillomavirus L2-interacting nuclear protein 1; PLINP; PLINP-1; p53-responsive
遺伝子 ID	90480.0
SwissProt ID	Q8TAE8
免疫原	抗血清はヒト GADD45GIP1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 91-140

**背景**

この遺伝子は、p53によって誘導され、G1期からS期への進行を阻害することで細胞周期を制御する核局在タンパク質をコードしている。コードされているタンパク質は、他の細胞周期制御因子と相互作用する可能性がある。[RefSeq提供、2012年8月]、機能：サイクリン依存性キナーゼを阻害することで、G1期からS期への細胞周期進行の負の調節因子として作用する。阻害効果はGADD45タンパク質の存在下では相加的に発現するが、GADD45タンパク質が存在しない場合でも発現する。ABドメインを介した転写活性を阻害することで、オーファン核内受容体NR4A1の抑制因子として作用する。NR4A1転写活性のホルモン媒介制御に関与している可能性がある。誘導：アポトーシス細胞においてp53/TP53によってダウンレギュレーションされる。その他：GADD45GIP1を過剰発現する細胞は、対照細胞と比較してG1期にある可能性が高く、S期にある可能性が低く、増殖が遅い。GADD45GIP1の発現を阻害すると、細胞周期の進行が促進される。サブユニット：GADD45A、GADD45B、およびGADD45Gと相互作用する。NR4A1ABドメインを介してNR4A1と相互作用する。ヒトパピローマウイルス16型(HPV16)マイナーカプシドタンパク質L2と相互作用する。組織特異性：広く発現している。甲状腺、心臓、リンパ節、気管、および副腎組織で高発現している。肝臓、骨格筋、腎臓、脾臓、精巣、卵巣、胃で低レベルで発現している。副腎腺腫および甲状腺乳頭癌ではほとんど検出されない。

## 研究分野

## 画像データ



GADD45GIP1抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。